

— 第125号 —

発行

最上総合支庁産業経済部
農業技術普及課

〒996-0002 新庄市金沢字大道上2034

TEL (0233) 29-1322

FAX (0233) 22-2026

E-mail: ymogaminofu@pref.yamagata.jp

普及だより

力を合わせ、課題解決を進めます



大豆現地研修会 (令和5年9月)



にら移植機実演会 (令和5年6月)



実践講座「花き：啓翁桜」 (令和5年5月)



実践講座「農村資源活用：
乾燥品の包装・ピクルス製造」 (令和5年10月)

地域農業の持続的な発展をめざして

普及推進主幹 森岡 幹夫

新年明けましておめでとうございます。

昨年の夏は、最上地域の8月と9月の平均気温が観測史上最も高くなり、これまでに無い記録的な猛暑になりました。また、8月の降水量は平年より極端に少なく、水稻や園芸作物の収量と品質に大きな影響を及ぼしました。

そのような中、水稻では白未熟粒等が見られ、一等米比率が例年より大きく低下しました。また、野菜や花きでも高温・少雨による生育停滞や高温障害等が見られ、出荷量は前年より少ない状況となりました。今後も高温や干ばつ、大雨、降電などの気象災害が発生する懸念があります。

一方で、企業ではBCP(事業継続計画)が注目され、農業分野でも農業版BCPがあります。これは、気象災害等の不測事態に対応して、どのように農業生産を継続するかを計画するものです。是非、今後の対策として、灌水設備や排水対策、リスク分散等を、家族で、仲間で、地域で話し合ってみませんか。農業技術普及課では、関係機関とともに引続き支援してまいります。

新年を迎え気持ちも新たに、環境変化に柔軟に対応し、持続可能な地域農業をめざしましょう。



普及活動トピックス

米の高品質安定生産を支援しています

気象変動に負けない米づくりのカギは「初期茎数の確保」です。

昨年は、登熟期がこれまでにない高温で経過しましたが、初期茎数を確保できた圃場では、品質が比較的良好である傾向が見られました。

当課では、初期茎数を確保するための肥培管理やワキ対策に関する現地研修会を実施するなど、今後も米の高品質安定生産に向けた活動を展開します。

「雪若丸」現地研修会
(令和5年6月)



各野菜品目の若手組織合同研修会を開催しました

管内では、野菜の主要品目ごとに若手生産者組織が結成されていますが、昨年は初の試みとして、各若手組織の生産者を一堂に集めた経営改善の研修会を開催しました。研修会後は情報交換会を開催し、品目や地域を越えた若手生産者同士の交流が行われました。当課ではこれからも若手組織の支援を行っていきます。



各品目の若手研究会
の合同研修会
(令和5年10月)

トルコぎきょうの産地再生を推進します

最上地域ではトルコぎきょう立枯病の解決が最優先課題でしたが、対策により被害を減らすことが出来ました。今後も立枯病対策を継続するとともに、高温対策の取組を推進し、暑い夏でも良品を出荷できるような生産性の向上を支援していきます。



トルコぎきょうの
巡回指導
(令和5年9月)

農産物直売所のさらなる発展を応援します

新規顧客の獲得や、高齢化に伴う運営組織の世代交代が直売所共通の課題となっています。当課では、魅力的な売場づくりや直売所運営の工夫を学ぶための視察研修会、SNSを活用した情報発信研修会等を開催し、直売所のさらなる発展を支援しています。



庄内地域への先進
直売所視察研修会
(令和5年7月)

産地研究室だより

最上地域の大玉トマト雨よけ夏秋栽培における生育の「見える化」技術の開発

最上地域の大玉トマト栽培では、新規生産者の栽培技術の底上げと安定生産技術の確立が求められています。そこで、トマトの生育を経験や勘に頼らずデータによって判断する技術である、生育の「見える化」の開発に取り組みました。その結果、成長点付近の茎短径と収量との間に相関が見られ、茎短径が生育指標として有効であることが明らかになりました。また、高収量の圃場は、栽培初期の追肥により、栽培後半まで茎短径が適正に維持されていることがわかりました。今後はこの成果の産地への普及を図り、生産性向上に繋げていきます。



現地圃場での茎短径(成長点から15cm下)の調査(令和5年6月、大蔵村)

若手繁殖農家の繁殖成績向上を目指します

和牛繁殖牛では、繁殖ステージに応じた飼料給与が必要となります。特に自給粗飼料では、草種や収穫時期によって、含まれるエネルギーやタンパク質の量が異なるため、飼料成分分析の結果等に基づき、適正な飼料給与ができるように支援しています。

繁殖牛の給与飼料
間取り調査
(令和5年11月)



「シャインマスカット」の新規栽培者が増えています

最上地域でも「シャインマスカット」の栽培に新規で取り組む人が少しずつ増えています。当課では、マニュアルに基づいた1年間の管理について座学を行うとともに、現場で花穂整形やジベレリン処理、秋の剪



定などの研修会や個別指導を実施しています。今後も生産者と連携し、高品質の果実が生産されるよう取り組んでいきます。
剪定研修会 (令和5年11月)

最上地域 農業士の 紹介



《戸沢村》
本年の目標を聞きました



【指導農業士】
荒木 誠さん
水稲/ミニトマト

ミニトマトの病害対策で単収増をめざしたい。また継続して新規就農者の技術習得支援に取り組みたい。



【青年農業士】
二戸部康之さん
水稲/そば/アスパラガス

経営の柱が大規模稲作とそば、その収益力アップを図り、新たなアスパラガス栽培を軌道に乗せたい。



【青年農業士】
早坂 剣さん
水稲/野菜

水稲は品質食味と収量の両立を継続していきたい、また新たに雪下キャベツ栽培に取り組みたいです。

GAPについて

ほ場準備、播種・育苗、病虫害・雑草防除、収穫・出荷調製に至るまでの作業手順や農薬・肥料・機械の取扱い方法等をあらかじめ決めておき、それに基づいて作業を実施し、決めたことが適切にできたか点検・評価を行い、反省点を改善する取組みを繰り返していくこと、それがGAP (Good Agricultural Practices) です。

これにより、①環境に配慮した農業の実践、②リスク管理による農作業・生産物の安全性向上、③無駄なコスト削減による経営改善、④生産現場での安全管理について細かな条件を求める流通・販売業者からの要求にも対応可能、といったメリットがあり、GAPに取り組むことで持続的な農業経営を展開することができます。



GAP研修会のお知らせ

- GAPについて基本的なところを学びたい方は「GAP基礎研修会」
と き：令和6年2月8日(木) 10:00~12:00
ところ：新庄市民プラザ (新庄市大手町)
- GAPの認証取得を目指す方は「国際水準GAP認証取得ガイダンス」
と き：令和6年2月28日(水) 13:00~16:00
ところ：山形県高度技術研究開発センター (山形市松栄)

参加希望の方は、事前に農業技術普及課 (TEL 29-1333) までお申込みください。

◎特別栽培農産物認証申請を忘れずに行いましょう!

やまがた農業支援センターへの提出期日(第1期)は、**2月15日~3月15日**までです。
「つや姫」栽培等、特別栽培農産物認証が必要な方は、

忘れずに申請してください。
なお、生産計画・ガイドライン表示は、提出前に農業技術普及課での確認が必要です。

<お知らせ>

降ひょう・集中豪雨・台風・豪雪・降霜など、近年多発する異常気象に備えて、セーフティネットへの加入を検討してみませんか。

詳しくは、山形県農業共済組合最上出張所

TEL 0233-29-5711までご連絡下さい。



NOSAIトップページ

おめでとうございます

今年度、最上地域で活躍されてきた多くの方々が受賞されました。

旭日単光章

国分 明氏 (大蔵村)

トマトの産地化を推進するとともに、農協ネギ部会部会長を長く務め、大蔵村のみならず最上地域全体のねぎ栽培振興と産地化に貢献されました。

また、大蔵村農業委員会委員及び会長として農地行政に尽力されるとともに、認定農業者や新規就農者の育成、農業経営の法人化、たらの芽の導入による周年農業の確立を推進し、農業・農村の振興と発展に大きく貢献されました。



大日本農会緑白綬有功章

長澤光芳氏 (舟形町)
舟形マッシュルーム

徹底した品質管理と年間を通じた安定生産に努め、国内シェア約20%を誇るマッシュルーム大規模経営を実現し、雇用創出に大きく貢献しています。

また、加工施設や産直レストランの導入により6次産業化を実践するとともに、環境保全型農業に取り組み、循環型農業・ゼロエミッションを推進しています。さらに、最上地域の農業法人とともに、地域農業の振興に貢献されています。



山形県ベストアグリ賞・東北農政局賞

JAおいしいもがみ北部酒米研究会「ゆびきりげんまん」
会長 指村貞芳氏

平成22年設立 会員20名 (19個人、1法人)

会員はすべて認定農業者で、園芸作物や繁殖牛を組み合わせた複合経営を行う地域の中心経営体です。

栽培管理の徹底により、高品質な酒米を生産し、県酒造適性米生産振興対策協議会が主催する「優良酒米コンテスト」では、平成26年度からほぼ毎年表彰を受けて高い評価を得ています。令和4年度には同コンテスト「雪女神」部門で見事、県知事賞を受賞し、県産酒の最高峰である『山形讃香』の原料米に選ばれました。



最上農業賞【組織活動部門】

金山町新産地開発協議会
会長 青柳栄一氏

地元の堆肥を活用して高品質な落花生生産に取り組んでいます。生産した落花生を、「美しい町で育つビューティフルなピーナッツ」という意味を込めて「ピーナッツ」と名付け、地域の企業と連携して様々な加工品開発を行っています。また、福祉サービス事業者との農福連携や地元小学校での食農教育など、多岐にわたる活動により農業と食の魅力を発信し、地域の活性化に大きく貢献されました。



各種品評会等受賞紹介

＊やまがたフラワーフェスティバル2023花き品評会

(敬称は略させていただきます)

金賞	農林水産大臣賞	りんどう	安彦 力 (鮭川村)
	東北農政局賞	りんどう	岸 隆一 (最上町)
	第一花き社長賞	トルコぎきょう	青木 賢 (新庄市)
特別賞	山形県生花商組合連合会長賞	りんどう	佐藤 正朝 (鮭川村)

＊第10回もがみさくらんぼ品評会

最優秀賞 最上地域農業・畜産振興協議会長賞 笠原 勝義 (最上町)

＊第4回山形のうまいもの「ファインフードコンテスト」

部門別最優秀賞 (調味料・その他部門)

「100%ピーナッツペースト」

農事組合法人いずえむ (金山町)



農作業・除雪中の事故、雪害防止、電気機器の接続等点検に努めましょう！